

乳房原発悪性リンパ腫の一例

◎森 咲月¹⁾、平澤 五美¹⁾、花村 怜美¹⁾、大谷 楓¹⁾、堀下 真季¹⁾、天本 春菜¹⁾、牟田 正一¹⁾
独立行政法人 国立病院機構 九州がんセンター¹⁾

【はじめに】乳房悪性病変に対する乳房原発の悪性リンパ腫の発生率は約0.05～0.53%程度で稀である。また、悪性リンパ腫の中で乳腺原発は2%程度である。今回、乳房原発悪性リンパ腫を経験したので報告する。

【症例】80歳代女性【主訴】左乳房にしこりを自覚。

【マンモグラフィ】左MOに境界明瞭な腫瘤影を認めた。【超音波検査】左乳房AC区域に46×38×23mmの分葉形腫瘤を認めた。境界は比較的明瞭で、境界部高エコー像を認めた。内部エコーは高低混在し不均質、後方エコー増強、血流(+)。両側腋窩に有意なリンパ節腫大は認めなかった。【CT/PET】左乳房に4cm大の辺縁平滑な腫瘤を認め、FDGの高度異常集積を伴っていた。【診断・経過】針生検の結果、びまん性大細胞型B細胞リンパ腫と診断された。化学療法が施行され、治療開始約2か月後のCT検査で左乳房腫瘤は消失していた。完全寛解と判断され、現在外来にて経過観察中である。【考察】本症例はサイズの大きい比較的境界明瞭な分葉形腫瘤であり、血流を豊富に認めたため、まず葉状腫瘍を考

えたが、特徴的とされるスリット像は認めず、粘液癌や浸潤性乳管癌(充実型)も鑑別にあげた。悪性リンパ腫は一般に圧排性発育をする極低エコー腫瘤だが、腫瘤が大きくなると間質成分や既存の脂肪織に腫瘍細胞が広がるため、本症例のように内部エコーが高低混在する不均質な腫瘤像を呈することが多い。また、本症例では境界が比較的明瞭であるにも関わらず、境界部高エコー像を認めた。通常のhaloとは異なり、極めて急速に増大する腫瘤が周囲組織の破壊を来すことなく乳腺を圧排するために生じる所見と考えられている。今回の超音波検査では悪性リンパ腫を鑑別に挙げることはできなかったものの、サイズが大きい比較的境界明瞭な腫瘤で、内部エコーが高低混在し、圧排による境界部高エコー帯を認めたことが、悪性リンパ腫の特徴を表していると考えられた。

【結語】内部エコーが高低混在したサイズの大きい境界明瞭な乳腺腫瘤を認めた場合、悪性リンパ腫も念頭に置いて検査する必要がある。(代表 092-541-3231 内線 2022)